

第6 3期公益社団法人有隣厚生会事業報告

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

今期は、62年間の法人の歴史の中で、最大級の赤字となり、経営的には、大変厳しい結果となりました。公益性を第一優先に事業を展開してまいりましたが、急性期病院という不採算事業に取り組む中で、法人事業を効率よく、かつ改革を大胆に推し進め、各病院の機能がフルに発揮できる体制づくりを斬新に取り組んでいくことが肝要であると痛感しました。

想定外の外部要因で御殿場市が黒字化し、不交付団体となったことで、当法人が予定していた特例交付金が2期連続で交付されず、結果、富士病院と東部病院は2年間の合計で2億8千万円の交付金収入がなくなりました。一般的に言われる市立病院の運営に関し、市の負担額は人口1万人に対して年間1億円となるといわれており、市立病院の機能を多くの診療科でカバーしている当法人は、その意味でも市立病院のない御殿場市の医療負担が少なく済み、その結果として市の財政の黒字化に間接的に貢献していると言えます。御殿場市が充実した市として不交付団体となり、反面、公的役割を果たす当法人の病院運営事業は、財政的に窮地に追い込まれる事態となりました。

そんな中でも不採算事業を初め、公益法人としての活動を更に強化し、広く住民の健康増進のための啓発活動、小児科をはじめとする地域唯一の診療科の更なる充実等に邁進しました。小児科においては、若手の小児科医師2名の採用が決定し、今後の地域小児救急、入院受け入れの充実に繋げました。また運営が厳しくなった共立産婦人科医院については、平成29年度事業で計画していましたが、保険医療機関認可の関係から開設が早まり、本年3月15日から当法人に統合し運営することとなりました。共立産婦人科は、地域唯一のお産のできる施設で、産科の灯を消すことなく継続することは、まさに公益活動といえます。

当法人は、『医療、保健、福祉、教育その他より良い社会の形成に関する事業を総合的・一体的に行い、地域社会の福祉の増進及び地域住民の生活向上に寄与する』ことを目的に平成26年4月1日に公益社団法人として認定を受け、より公益性の高い法人として各事業を深い連携でつなぎ、一体の事業として展開してきました。不採算事業も、他法人が手掛けない事業であろうと、市民の要望を優先し、公益法人としての活動として積極的に取り組みました。

さらにこの苦境の中で、あふれる医療情報と保険制度の改定(DPC)に対応するために富士病院は電子カルテ化に取り組みます。平成29年7月病棟とオーダーリングをスタートさせ、10月には外来の運用が始まります。患者様には導入当初、大変なご迷惑をおかけしますが、何卒ご理解頂き、半年後には改善できたと評価されるよう準備中です。また富士小山病院は一步先に平成28年度電子カルテ化を見据えたオーダーリングシステムを稼働させました。

3病院で市立病院の代わりを担い、より安全・確実で親切な医療を職員皆が培った技術を持って診療を実践することで、すばらしい病院群が形成され、地域医療を守っていくために平成28年度事業の基本方針として

- ① 法人が運営する3病院とグループホーム、訪問看護ステーション各々の事業の技術と水準を向上させ、地域医療構想を見据えて地域の中核的機能を果たす。
- ② 他医療機関・行政・施設との連携を一層強化し、地域包括ケアシステムの動きに沿う

形で東部病院に包括病棟を設置し、急性期から在宅医療、介護までの一連のサービスを包括的かつ総合的に循環するよう推進する。

③ 広範囲な公益事業を各部門で積極的に取り組む。

これらの基本方針に沿って策定した事業計画に基づき、次の公益事業を実施しました。病院の運営は大変厳しい状況下でしたが、公益活動による一般市民の利益を確保でき公益法人としての目的は達成できました。

公益事業の内訳

1. 病院・診療所の運営
2. 訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所の運営
3. 高齢者のグループホームの運営
4. 一般住民に対する医療健康づくりのためのセミナー、講演活動等
5. 医療人材の養成支援
6. 病院、施設等における各種相談助言

1. 病院・診療所の運営

御殿場市、小山町の地域を中心に、地域医療の確保とこれを通じて地域社会の発展に寄与することを目的として、二次救急医療、急性期医療、行政や住民の医療ニーズなどに対応した診療科の開設運営、その他これらに付随または関連する事業等を一体的に実施しました。

現在、急性期疾患に対応する一般病床を持つ富士病院、一般病床及び療養病床を持つ富士小山病院、一般病床及び腎臓病(透析)センター・血管創傷管理などの機能に加え包括ケア病棟を取り入れる東部病院を運営しております。富士病院は今期も救急に力を入れ、H28年4月より3病棟を超急性期病棟、一般急性期病棟、在宅支援病棟に分け、ベッドコントロールを機能させて受け入れ体制の強化を図りました。当初は救急の受け入れの改善、平均入院患者数も増加し、医師たちの負担増はあったものの、成果が出ておりましたが、退院支援病棟の退院が進まず、長期化し、ベッドコントロールの機能を働かすことが出来ない場面が多くありました。今後の課題がいくつかあります。また IT 化の遅れを今期取り戻すべく、電子カルテ化・オーダーリング化に取り組み、更に3年目の静岡県看護協会が主催するワークライフバランス事業は成果として、労働環境の改善があり、労働意欲を向上できたと考えます。

また赤字の原因の一つに、長期化の予測のできる患者様も急性期疾患があれば受け入れており、急性期脱出後の転送先で転院がスムーズにいかず、満床状態となり、救急患者をお断りするケースが増加しました。結果、富士病院は在院日数が伸び、入院単価が減少し、収入面で昨年を割り、更に診療の充実を目指し、医師、看護師を確保、メディカルクラークの増員などで人件費が増加、東部病院は入院患者の増加が得られず、2病院ともに今期は大幅な赤字となってしまいました。

この解決策は、3病院の機能分担と連携強化です。その中心として今期、東部病院に地域包括ケア病室を計画し、病院の機能分担を早急に推し進める為の準備に取り掛かりました。PT, OT , 情報管理士を採用し、H29年10月からの整形外科の常勤医師も内定しました。

東部病院と富士小山病院が救急に加え、療養、在宅に向けての患者様を収容することで、富士病院の満床で長期化してしまっている2割近いベッドが空き、急患を断らないで対応することが可能になり、地域の救急医療体制が整備されます。この循環を作らない限り、法人全体の健全運営は得られません。

富士小山病院は、小山町より65,817,000円の特例交付金を受けることで、小山町との関係がより深まり、連携が更にスムーズとなり、小山町唯一の一般病院としての期待が膨らんでおります。またオーダーリングを導入し、電子カルテ移行も今後スムーズにできる環境を構築しました。

東部病院は常勤医師の採用はあったものの、期待通りの入院増には繋がらず、透析の収益を外来・病棟で食いつぶしてしまう結果となりました。富士病院の救急の機能を充実させるためには、東部病院、富士小山病院の救急の負担を徐々に緩和し、併せて、回復した患者様を早期に2病院に転院させ、継続して治療、療養の流れを確立する必要があります。各々の病院で特色を伸ばし、機能分化を進め、患者の病態に合わせて、3病院でよい連携と循環を作ることが法人の運営に不可欠と再認識しました。また強い連携を持つ医療法人沙羅 東富士病院とは、認知症患者を含めた精神科疾患の対応で連携を深め、また人的連携も強化し、平成29年3月15日付で統合した共立産婦人科とは、小児科との連携も深めていきます。すべての事業が連携して行う一例として、産科で生まれて間もない新生児を、富士病院の小児科医が診察、先天性疾患等早期発見に繋げることができます。

健診事業については、御殿場市、小山町の住民健診(特定健診、乳がん、子宮ガン等)を中心に、最近の医療機器や技術力等病院の持っている機能をフルに生かした精度の高い検査を実施し、その結果データを分析し、市の医療計画への反映や住民の疾病予防と公衆衛生向上に寄与しました。また各種キャンペーンの他、腎不全予防のためのCKD啓発活動など医療機関、住民の健康意識の向上のため活動も積極的に取り組みました。

富士病院の運営

富士病院は、救急患者の受入件数は、年間991件（昨年1,022件）でした。さらに沼津地区の内科2次救急の支援（広域救急）は年間48日担当し、救急車 178台を受入れました。内科以外にも外科は二次救急医療を引き続き週2日受け持ち、加えて第2、第5土日の日当直の外科担当も実施しております。循環器疾患は24時間365日緊急カテに対応し、古くなった第2カテ室の血管連続撮影装置を更新しました。小児医療も、センターからの入院依頼を受け、緊急透析をはじめ、吐下血などの対応もできる範囲で実施しました。また緊急内視鏡についても看護スタッフの待機を設置し、検査、放射線、手術室、MEも夜間対応可能な体制で臨みました。放射線技師については富士病院で富士小山病院、東部病院の待機も支援しております。

スタッフ教育に関しても同様に注力、医療水準のアップを図りました。しかし、看護師不足は改善傾向ではありますが継続し、ICU室の活用は一時中止したままの状態です。平成29年度後半にはハイケアユニットとして再開の準備を進め、30年度再開を目指します。

急性期医療以外にも地域で必要とされている医療の継続と診療内容の充実、診断の精度を上げるための医療機器等の整備など診療レベルの向上に努めました。

健診事業も全体的に増加し、出張健診も新たな企業が加わりました。健診専門医師を採用し、検査結果に基づく診断、健康管理及び予防等実施し、治療に至る包括的対応を行い、地域住民の健康予防対策室的な役割を実践しました。

しかしながら、満床でことわざるを得ないケースも多く、新入院患者数が激減、平均在院日数が伸びてしまったことが収益悪化の主要因です。

以上の結果として、一日平均患者数125.6人(昨年124.7人)となりました。平均在院日数12.7日(昨年12.1日)で昨年より増加しました。これは高齢者の救急の増加と、長期入院患者の他施設への転院がスムーズにいかない場面があったことが反映しております。25.26年は11.3日と11.5日でしたので1日以上増加しております。平均入院日当点は6,072点(昨年は6,185点)一昨年は6,393点でした。

医業収入については、外来収入が1,892,053千円(昨年比1.01%増:昨年度実績1,871,849千円)と微増、入院収入が、2,831,891千円(昨年比4%減:昨年度実績2,949,381千円)でした。保健予防活動は、176,406千円(昨年比0.6%増:昨年度実績175,303千円)と増収となりました。医業収益総額では5,149,520千円の収入で昨年比0.15%減となりました。

医業費用については、給与費2,579,725千円(昨年比5.4%増:昨年度実績2,446,562千円)となりました。材料費は1,644,817千円(昨年比2.7%減:昨年度実績1,690,119千円、委託費は257,284千円(昨年比19.2%増:昨年度実績215,815千円)これは医師・看護師の紹介会社への紹介手数料の増加が大きく影響しております。経費は688,404千円(昨年比1.5%減:昨年度実績698,865千円)減価償却費は118,707千円(予算比10.7%減:昨年度実績132,948千円)でした。今期、医業収入も減収となり、経費も節減しましたがとても追いつかず、193,255千円の大きな経常損失となりました。

この赤字を解消すべく、各部門より対策案を求め、解消計画として全78項目の赤字解消に取り組んでおります。市立病院がなくても、不安なく医療を受けることが出来る医療環境を目指しての取り組みですが、行政からの支援なしでは黒字化は困難で、このままでは、近い将来運営が行き詰まることは明白です。公益活動をしっかり行い、成果を出し、役割を果たしながら、急性期病院の運営を担当して、頑張っておりますが、危機的状況に陥っている事実を行政・市民の方にもご理解頂きたい。

富士小山病院

富士小山病院特別会計保険診療収入の内、療養入院収入(介護保険)は、昨年以上に地域の高齢化や老老介護、在宅及び施設入所困難な医療度の高い介護者の増加等により、1日平均58.4人とほぼ満床状態となり、前年を上回る収入となりました。介護度の高い待機者も増えていきますので、今後もこの傾向が続きます。

一般入院収入は、患者数は昨年より若干減少していますが、昨年に引き続き白内障手術患者の減少に伴い収入も減少しました。

外来収入は、平成24年度からの患者数の減少傾向に歯止めがかからず、前年度比

△1, 818人の約1割の減少となっています。主な理由としては特に眼科患者の減少が著しく、昨年度に続き、御殿場市内の眼科医院が新規開業したことによるものと、小山町人口の減少傾向等が影響しているものと考えられます。以上のことから、医業収益は前年比△2, 900万円余減収となりました。医業費用は人件費が常勤医師及びコメディカルの増員等により前年比1, 200万円余増加し、経費全体で前年比1, 500万円余の増加となりました。結果、約1, 000万円（前年比△4, 400万）の利益計上とし、昨年度に引き続き、建物の老朽化に伴う建て替え資金の積み立て1, 000万円を計上しました。ただし、昨年同様に小山町からの特例交付金6, 581万円が含まれており、助成がなければ、厳しい運営状況となります。

昨年に引き続き、不育症の専門としての当院院長により、県主催の不育症セミナー交流会が回数を増やし行われました。継続的な啓発活動等の結果、テレビ新聞からの取材も受け、不育症の認知が広まり、それを受け県及び市町の助成も始まりました。このような中、昨年に引き続き女性外来は、問い合わせも増え、608名と前年比+85名の増加となりました。

職員確保に関しましては、念願の常勤医師1名の採用が決まりました。しかし、看護師の採用も含め、求人広告等のコストも400万程かかりました。また、介護士の確保も非常に難しくなり、来年度の新卒の確保が初めて不可となりました。今後も、御殿場小山の企業誘致が活発となり高校新卒の確保は非常に困難となります。そのために初めての試みとして、比較的人員が過剰な地域からの介護士確保を目的に、九州（佐賀、宮崎）13高校へ求人訪問を行いました。また、小山町唯一の病院として、この地域に必要な医療介護サービスを恒久的に提供するために、継続的な医師及び職員の確保を行う必要があります。そのために、厳しい収入の中、未来に向けた職員確保のための職場環境の整備費用として、医療機器の導入や業務負担軽減のための昨年度協議中であったオーダーリングシステムを10月より本稼働を行い、来年度の電子カルテに移行に向けて準備を行いました。

東部病院

東部病院は、平成26年6月末に常勤透析医師が退職し、その採用活動を行ってまいりましたが、補充の無い中、28年3月末に常勤内科医師が開業のため退職となり、28年4月では当院の常勤医師数はわずか2名となってしまいました。

御殿場市・小山町・裾野市に在る透析施設の中で、唯一夜間透析を行い、輪番制二次救急病院でもある当院は、透析医療と医療業務の体制維持と継続のため、非常勤医師の雇用によりこの難局に対応いたしました。

透析患者の受入拡大をし、透析需要に応えつつ、7月並びに10月に常勤医師が採用できましたが、入院患者数の伸びには繋げず、医師紹介業者への支払い、厳しい契約条件等で給与費及び委託費が大きく増額いたしました。

また、本年度は3階病棟病室の療養環境を大幅に改善する改修工事を終え、これからの高齢化社会に対応するための地域包括ケア病室工事を、29年度末開設に向け、スタートいたしました。地域包括ケア病室によって、地域の医療介護のネットワークに根差した活動をおこなってまいります。

平成28年度の医業収益は、1, 076, 354千円で、(前年比△28, 454千円)、当期損益は

△139, 771千円、(前年比△96, 219千円)となりました。

外来全科は、延べ患者数40, 442名(前年比△2, 663名)一日平均患者数130. 0人(前年比△7. 7人)、収入については715, 609千円、(前年比+9, 999千円)となりました。

入院全科は、年間延べ在院患者数が7, 169人(前年比△1, 213人)一日平均入院患者数は19. 6人(前年比△3. 3人)となり入院収入は276, 196千円(前年比△16, 671千円)でした。

透析収益は外来が548, 941千円、(前年比+32, 150千円、収入構成比77%)延患者数18, 250名(前年比+766名)、入院が98, 430千円 延患者数2932名(前年比+8709千円 延患者数+160名 収入構成比35%)となりました。

当院の特徴の一つである『足外来』は、より専門化が進行しており、入院収益比も42%を占めるまでとなっております。

共立産婦人科医院

昨年の理事会・総会で当法人の運営が決まっておりました共立産婦人科医院は、保険医療機関の許認可の関係で平成29年3月15日より、運営を当法人で行うことになりました。

昭和35年に開設、現在では御殿場市、小山町で唯一のお産のできる施設として、年間350件程度のお産をおこない、この地域の産科医療を支えています。

運営面では、近年の少子化の影響で出産数の減少から収入も減り、人件費の増加も加わり経営は年々悪化。加えてベテランの先生方の負担も多く、また将来の安定運営には医師の確保が不可欠でした。昨年9月、富士小山病院の牧野院長の口添えで、聖マリアンナ医科大学産婦人科教授に医師派遣を依頼し、公益法人が将来運営する診療所であれば出しやすいとして、週2日の日当直勤務医師の派遣が実現しました。また同様な理由で、平成29年4月1日より、一般公募で常勤医師の採用も決まり、新しい共立産婦人科が誕生しました。収益面では賃料などの経費的な改善もあり、1年目については、患者増加は平成29年度後半から期待でき、平成29年度は収支トントンを目指して運営します。

1-1 一般外来

富士病院の外来については、診療精度の向上を目指し、各種検査の機器の更新を積極的に行い、また、コメディカルの技術向上を推進した結果、診断・治療能力は着実に進みました。当会では各種検査結果は当日治療に反映できるよう努めており、結果、迅速な診断を可能にしております。加えて、待ち時間対策としてサテライト入力を導入、診察・スタッフの動線の改善により待ち時間短縮が進み、患者様のスムーズな受診に繋がりました。しかし、患者様増加の対応に追われる場面も多く、顕著な改善とは言い難い状況で電子カルテ化が急がれます。富士小山・東部病院は患者数横ばいでしたが、専門外来など特色を持った外来は定着してきており、他医院からの紹介も増加している。

【平成28年度実績】()は昨年度実績

一般外来数

年間延受診者数252, 857人(昨年247, 223人)

富士病院170, 324人(昨年161, 245人)、富士小山病院41, 392人(昨年43, 269人)、東部病院40, 442人(昨年42, 709人)、共立産婦人科699人(3月15日から3月31日まで)

1日外来平均患者数

富士病院583人(547人)、富士小山病院124人(147人)、東部病院129人(136人) 共立産婦人科45人 合計881人(830人)

1- 2 健診事業

一般健診、人間ドック、特定健診、婦人科健診、小児健診など幅広く当院の診療体制を活用した健診が行われた。

【平成 28 年度実績】

特定健診受診者数 3,666 人(2,713 人)

富士病院482人(526人)、富士小山病院1,030人(1,072人)、

東部病院 1,154人(1,115人)、

マンモグラフィー健診2,463人(2,182人)

富士病院1,126人(1,281人)、富士小山病院603人(530人)、

東部病院734人(371人)

子宮ガン検診 1434人(1,081人)富士病院 1,178 人 共立産婦人科 169 人

1- 3 救急医療

富士病院では沼津・三島・裾野の内科広域救急担当を月 2 回実施した。

救急車受入件数は 富士病院 991 人(1,022 人)、富士小山病院 174 人(199 人)、東部病院 88 人(122 人)合計1,253台(1,343 台)

【平成28年度実績】

(救急センターからの転送・他地域・病院からの搬送も含む)

・疾患別 3 病院 合計

心疾患 224人(211人) 呼吸器疾患 228人(177人)

消化器系疾患 161人(151人) 脳血管疾患 48人(63人)

小児救急 48人(45人) 外傷系 40 人(64人)

中毒 16人(20人) 不明 29人(35人)

その他 459人(556人) 合計 1253人(1,343人)

・休日・時間外救急対応件数 1,774人 (1,977人)

富士病院 1,502人(1,679人)、富士小山病院208人(210人)、東部病院 64人(88人)

・広域救急救急車受入件数178件(昨年202件)

1-4 在宅訪問診療

地域医療構想と地域包括ケアシステムの推進の中で、高齢者の方々が、安心して疾患に対応した医療・介護の提供が受けられるよう支援し、加えて見取りの問題も包括的に支援する仕組みを徐々に構築するように進めました。連携している施設と連絡を密に取りながら、在宅・施設でその人らしい生き方で暮らせるよう、訪問看護ステーションとも連携して支援してきました。たとえば富士病院では施設入所者の身体情報をあらかじめ連絡をもらい、万一の対応を当直医に連絡しており、急変時の受け入れをスムーズにしました。

【平成 28 年度実績】

施設訪問診療件数9施設(10施設)訪問診療患者数101人(201人) 訪問診療回数2,339 回(2,318回)

1-5 医療協力・派遣・ボランティア

当法人は他の病院・医院や行政・学校・企業からの医療協力・医師や看護師、技師の派遣・ボランティア派遣の要請などを可能な限り受け、地域医療の向上と各種ボランティア活動を通じて助け合いの精神の普及に努めました。

【平成28年度実績】

- ・御殿場市救急医療センターへの一次救急医療代行(年3回)
- ・救急センターの当直スタッフ派遣
小児科医師 50日(50日) 外科医師20日(24日)
放射線技師派遣131日(139日)
- ・地域医療機関・施設への定期スタッフ派遣協力
医師 7施設(富士宮市立・徳州会大和・オレンジシャトー他5施設)
放射線技師4施設(東富士病院・富士山麓病院・裾野第一クリニック他)
言語聴覚士1施設(社会福祉法人富岳会)
臨床検査技師2施設(こうえい痛みクリニック、共立産婦人科医院)
- ・医師会行事への医師・看護師派遣、緊急時受入
予防接種・乳幼児健診22回(24回)
- ・学校医 校数8校 校医出動件数13回(同数)高松5回、
マラソン大会・体育大会など看護師派遣3日(14日)
- ・診療協力(医師会経由含め催し物患者受け入れ)12件(12件)
- ・災害時ボランティア活動
リレーフォーライフ参加人数 2人(2人)
- ・募金活動金額(ユニセフ募金・ハートフル募金等)
24,588円(63,206円)
- ・地域防災訓練支援(看護師・放射線技師派遣) 5人(4人)
- ・高校等への医療担当看護師派遣)1件(1件)

1-6 オープンシステム事業

地域に開かれた病院として、オープンシステムをいち早く導入し、地域全体の医療の質の向上に努めている。近隣の診療所・病院の医師が、当院医療機器を共同で利用し、当院専門医の診断などを付けてお返しする等積極的に取り組む。共同利用の医療機器は内視鏡・カテーテル検査・MRI・CT・ホルター心電図等広範囲であり、他病院・診療所における不足の部分を当会でカバーすることにより、地域で効率よく安全で質の高い医療を展開できることに貢献しています。

【平成28年度実績】

他施設からの依頼

CT依頼施設数24施設(18施設)	CT件数 405件(383件)
MRI依頼施設数14施設(11施設)	MRI件数210件(244件)
エコー依頼施設数7施設(8施設)	エコー件数39件(28件)
大腸内視鏡検査依頼施設数14施設(13施設)	大腸内視鏡件35件(46件)
胃内視鏡依頼施設数8施設(5施設)	上部内視鏡件数17件(13件)
冠動脈造影依頼施設数4施設(6施設)	冠動脈造影件数 20件(19件)
その他依頼施設数 7施設(15施設)	その他件数 93件(67件)

依頼施設数合計 37施設(74施設)

依頼件数736件(746件)

1-7 専門領域

① 循環器医療

日本循環器学会の循環器専門医研修施設として、24時間365日体制で循環器科医師を配置し、緊急の心筋梗塞等にもカテーテル治療の対応ができる体制を整えてきました。また、心臓バイパス術、弁置換術など心臓センターとしての機能を充実させ、循内と心外がチームとして合同で地域の心疾患をカバーする医療を提供しました。平成7年に“地域住民の心臓をわれわれで守る”という強い理念でスタートして20年以上経ち、最高水準の循環器治療ができる病院としての地位を確立しつつあります。またアブレーション治療[経皮的心筋焼灼術]の中でも発作性及び持続性心房細胞に対する治療を中心に3Dマッピングシステムを用いて成果を出しております。また第2カテ室の血管連続撮影装置を更新し、鮮明な画像で、救急が重なったときでも対応できる環境となりました。スタッフ教育の問題で、並行稼働が難しい面は改善していく。

【平成28年度実績】

急性心筋梗塞 66例(104例) 救命率 100%(100%)
冠動脈造影法(CAG)366例(406例)、
経皮的冠動脈形成術405例(439例)
心筋焼灼術83例(76例)、経皮的血管形成術(PTA)52例(44例)
ペースメーカー埋め込み術32例(36例)
心臓バイパス術等開胸術33例(24例)
FFバイパス、FPバイパス12例、下肢静脈瘤134例(140例)、
シャント手術例103例(87例)、血管外科、皮膚形成他66例

② 小児科

当会の富士病院は、この地域で唯一小児科の入院ができる施設である。医師の待機は24時間365日体制で急病患者に対応した。東海大学の派遣で2名の常勤医と5名の非常勤医師で対応してきました。平成29年から若手医師2名採用内定、更に小児医療の充実に繋がります。

【平成28年度実績】

緊急入院件83例(74例)、各種予防件数2,129件(1,951件)
乳幼児健診199件(177件)、脳波検査71件(60件)
インフルエンザ536件(500件)

③ 呼吸器内科

当地域は呼吸器疾患の患者が多く、また、専門的な診療ができる病院は、唯一富士病院だけである。昨年度呼吸器内科常勤医師が退職し、昭和大学から非常勤医師の派遣で平成28年度は乗り切りました。引き続き常勤医師の雇用に努めます。退職した常勤医師も非常勤として診療に協力頂き、睡眠時無呼吸疾患の検査を再開する予定。内科の先生方の負担が増加しました。

【平成28年度実績】

在宅酸素療法患者数 90名(96名)

無呼吸症候群治療患者実数13名(15名)

④糖尿病内科

日本糖尿病学会認定教育施設として、チームで糖尿病指導に当たり、その管理に傾注しました。また、各種糖尿病に関するイベントを開催し、富士病院の患者会である“ごてんばふじの会”を中心に活発に啓発活動を行いました。スタッフ育成については、糖尿病療養指導士を育て、スタッフ一人ひとりの技術の向上にも力を注ぎました。患者様の教育入院では療養指導チームによる療養指導と並行して、糖尿病の成因、病態、合併症などの全身精査を行い、患者様の病態に合わせた最適な治療を行いました。

【平成28年度実績】

糖尿病受診患者延数8,370名(6,128名)

⑤消化器内科・消化器外科・肛門科

当法人では、消化器全般の疾患を正確な診断をもとに診療、治療方針を決定、十分な説明をもとに、患者様にとってより良いと思われる診療を心掛けてきました。

最新の64列CT、1.5テスラMRI、内視鏡、超音波機器、各種血液検査機器これらを操作する熟練したコメディカルが精度の高いデータにより手術方針が決定し、救急医療にも繋がっております。

内視鏡を中心として癌の早期発見に努め、手術も積極的に実施し、症例は年々増加しております。また、肛門科におけるジオン注射など特殊な手技も積極的に取り組み実施しました。

【平成28年度実績】3病院合計

上部内視鏡検査3,146件(2,937件)

大腸内視鏡検査1,299件(1,302件)

ポリープ切除術 179件(168件) ERCP49件(39件)

ESD 1件(5件)、吐下血緊急入院28件(36件)、穿孔2件(2件)

腹腔鏡下胆嚢摘出術23件(21件)その他腹腔鏡下手術21件、人工肛門増設6例(11例)、胃癌切除術8件(7件)、イレウス 8件(11件)虫垂8件(19件)

他133件(200件)、鼠径ヘルニア75例(19件)、

消化器系手術合計282件(288件)、全麻症例233件(235件)

肛門科・・・外来ジオン注射療法 6例(19例)

⑥乳腺外科

検診から診察、検査、手術、化学療法、リハビリ、患者会による心のケアに至るまで一貫した診療体制で、乳がん撲滅のために検診・診療・相談指導・啓蒙活動などを実施した。またトモシンセシス対応マンモグラフィーは精度の高い画像が得られ、乳がんの早期発見に大変役立ちました。

【平成28年度実績】

乳房切除術(温存)10件(31件)、乳腺腫溜摘出13件(30件)、その他6例(4例)

マンモグラフィー検査 4,686件

マンモトーム 85例(54例)

⑦泌尿器科

当地域で唯一の泌尿器科の入院ができる施設であり、皮膚排泄機能認定看護師による指導も実施している。癌手術症例も多く、化学療法患者・結石破砕治療患者も多い。また、新規導入したレーザー破砕装置と軟性鏡による治療は患者様の負担を軽減し、治療成果も大きく、地域唯一の治療として注目を集めております。

【平成28年度実績】

膀胱腫瘍摘出術25件(36件)、尿管ステント留置術63件、経尿道的前立腺切除術レーザー8件、他17件、前立腺肥大切除術 件(23件)
その他46件(116件)、尿管膀胱結石破砕術23件(83件)
手術件数182件(217件)内全麻件数62件(67件)

⑧眼科

最新の検査機器を導入し、広範囲の眼科診断治療を実施しました。OCTによる視神経・神経線維層解析が可能になり、緑内障の診断・治療評価の精度向上、パターンスキニングレーザーの導入により、網膜光凝固術に伴う苦痛が大幅に軽減され、患者様の評判は大変高く、利用が増加しました。また、手術も白内障意外に緑内障に対してのレーザー・濾過手術や眼底疾患に対して硝子体注入療法や網膜光凝固術等を行った。

【平成28年度実績】

白内障手術645件(735件)、緑内障手術 4件(1件)、網膜光凝固術20件(10件)、硝子体注入・吸引術 29例

⑨人工透析

御殿場市・小山町及び裾野市において当法人は唯一腎臓内科専門医による導入管理から急性期の合併症に対応。さらには外来透析患者の急変(骨折・心疾患・消化器系・脳疾患等)に緊急透析が出来る体制を24時間365日整えている。今年度は導入患者が多かった。

【平成28年度実績】

入院透析 56人(25人)延べ日数8,180日(3,839日)
外来透析 182人(207人)延べ透析回数30,703回(30,703回)
内夜間透析 30人(26人)※人数は3月31日現在
透析導入件数 79人(65人)
入院受入306回(290回) 死亡件39人(37人)

⑩整形外科

1. 5テスラMRIと64列CTを活用してできるだけ早期に正確な診断・治療を開始し、リハビリテーションに繋げて、早期機能回復を目指した診療を実施しました。脊椎脊髄外科指導医のもと、手術症例が増加し、新しくなった手術室を活用しております。人工膝関節置換術、関節鏡下検査等も積極的に行い、加えてモザイクプラスティールを使用した骨移植術にも取り組み、骨再生に効果的な低強度パルス超音波療法の採用など新技術も積極的に取り入れた治療を行いました。1名の常勤医師の増加があり、症例は増加傾向となる。

【平成28年度実績】

人工膝関節置換術 8例(7例)
股関節人工骨頭手術 12例(6例)

大腿部骨折	37例(25例)
腰椎ヘルニア手術	6例(67例)
頸椎手術	16例(18例)
関節鏡(膝・肘)検査	30例(11例)
腰部脊中間狭窄症手術	46件
その他	158例(173例)
手術件数	267例(277例)
うち全麻件数	207例(150例)

1-8 療養病棟

富士小山病院療養病床60床利用率95%(昨年96.6%)今期も生活困難者・生活保護受給者の受入を積極的に行ったが、今期は減少した。

【平成28年度実績】

月平均入院患者数	58.4人(58人)
内生保患者	4人(6人)

1-9 医療従事者による調査研究・学会発表

臨床より得られた研究課題について、研究し、得られた成果を学会・研究会で発表し、医学の発展に貢献した。

【平成28年度実績】

医師	29件(18件)(日本腎臓学会、他)
看護師	5件(4件)
その他	4件(6件)(日本慢性期医療学会 他)
合計	38件(28件)

1-10 一般入院

富士病院の入院患者数は順調に伸び、さらに昨年2月より超急性期、急性期、退院支援病棟と病床を区分けし、病棟管理師長を配置して救急受け入れ体制を確保すべく、ベッドコントロールを効率よくまわしていくことで救急患者、紹介患者の受け入れ体制の強化を図り、取り扱い患者数の増加を図りました。しかし、機能分担が医師不足などの影響で東部病院、小山病院とも取扱い患者数が少ない状況が継続し、経営への影響が大きかった。

入院延べ患者数

1日平均取扱患者数 168人(167.0人)

富士病院 124.6人(122.0人) 富士小山病院 18.5人(18人)

東部病院 24人(27人) 共立産婦人科3.5人(3月15日から31日まで)

平均在院日数

富士病院 12.7日(12.1日) 富士小山病院 18.7日(13.1日)

東部病院 11日(13日) 共立産婦人科5日(3月15日から31日まで)

年間新入院件数 4,413人(4,545人)

富士病院 3,355人(3,490人) 富士小山病院 627人(666人)

東部病院 422人(389人) 共立産婦人科9人(3月15日から31日まで)

2. 訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所の運営

「その人らしさを大切にする看護」を理念とし、家族と共にその人らしく在宅で過ごしたいという願いに寄り添い、幅広い訪問看護活動を行っています。また、御殿場、小山地区は、開業医、勤務医が非常に少ない為、医療情報を地域に伝えるという役目も担ってきました。富士病院の訪問診療に同行し、利用者、家族、主治医とのパイプ役として在宅医療を支えています。在宅における訪問看護の必要性は高く、小児から高齢者まで多種多様な疾患や医療処置に24時間365日対応しています。

利用者数は、平成27年度の利用者数は、月平均99.5名、訪問件数は6,366件、平成28年度の利用者数は、月平均89.3名、訪問件数は5,704件でした。施設数の増加や訪問看護ステーションの新設など地域移行推進の中、今後も、家族の介護負担を考慮し、その人らしく在宅生活を継続できるよう支援を続けることが重要です。同時に医師を含む多職種との連携を円滑に行い、地域の方々の要望に応えられるような体制作りを継続していきます。在宅でのリハビリテーションの必要性も更に増加し、理学療法士は、機能訓練強化、言語聴覚士は、嚥下訓練、誤嚥性肺炎予防等訪問リハビリテーションを積極的に取り組みました。

【平成28年度実績】

(地域連携活動)

利用者数 : 1,071人(1,194人)

指示書依頼医療機関 : 25施設(24施設)

訪問年間回数 : 5,704(6,366件)

夜間休日相談回数 : 159件(156件)

夜間休日出動回数 : 218件(202件)

サービス担当者会議出席 : 70件(79件)

静岡県訪問看護ステーション協議会主催の訪問看護電話相談

御殿場看護学校へ講師派遣(2人)

訪問看護実習生の受け入れ(御殿場看護学校)29名

職場体験(御殿場西高校)1人

医療機関の看護師等研修(1人)

看護職員管理者の相互研修(2人)

グループホームごてんば健康チェック(1回/週)

併設の居宅介護支援事業所では、介護支援専門員(訪問看護師と兼務)が利用者の要望に基づいてケアプラン作成に当たり、サービスの調整を行いました。

居宅介護支援

ケアプラン作成件数 : 49件

介護支援専門員(5人)在籍し月1回の介護支援専門員連絡協議会に出席

御殿場市介護認定委員(1人)

御殿場市介護保険運営協議会委員(1人)

介護認定調査員(2人)認定調査施行

介護支援専門員在宅医療研修(2人)

3. 高齢者のグループホームの運営

“グループホームごてんば”は、開所から15年になります。認知症の入居者、一人ひとりに合わせた介護をするために、スタッフ間で話し合いを重ねながら柔軟に対応しています。

年間で入居者5名・退居者4名です。退居者は入院中に亡くなった方1名です。入院対応は7回行い、すべての入院日数を合計すると、491日となっています。

入居時より、病状が非常に重い持病を抱えている方が多いため、受診や入院の対応も多く、職員の業務負担が増えています。

重度化しても、家庭的な環境の中で日常生活の援助を行い、認知症の進行を穏やかにし、訪問看護ステーションと連携して健康管理を行いながら、明るく楽しい生活を送って頂いています。

地域密着型サービス事業所として、運営推進会議を年間6回開催し、様々なご意見を参考にしながらサービスの質の向上を行っています。運営推進会議を利用して、地域との連携が円滑に行えるよう活動しました。

研修研究活動

職員の研修においては、様々な研修に参加し、研修後は内部研修を兼ねた報告会を行い職員のキャリアアップを行いました。

地域貢献活動として

グループホームごてんば便りを発行し、家族の方々、地域・連携施設などに配布して活動報告を行いました。

地域の方からボランティアの参加希望があり、積極的に受け入れ福祉の心を共有して頂きました。

近隣の御殿場聖マリア幼稚園との交流を通じて、幼児から歌やお花などのプレゼントを頂き、入居者の笑顔が印象的でした。

介護についての疑問・相談を無料で受け付け対応しました。

認知症になっても、安心して暮らせる地域を作る啓発イベントのRUN伴TOMO-RR OW(ラン伴)に参加しました。

【平成 28 年度実績】

入所者平均人数 7人 (7.5人)・・・定員は9人

介護度5は0人 (1.28人)、介護度4は2人 (0.98人)、介護3は1人 (3.00人)、介護2は1人 (1.28人)、介護度1は2人 (0.9人) 要支援0人 (0人)

運営推進会議 6回 (6回)

お花見などの催し年51回 (37回)

ホーム便りの発行6回 (6回)

たくさんの催しが出来て、楽しい生活を利用者様に送って頂けたのが、一番です。

4. 一般住民に対する医療健康づくりのためのセミナー・講演活動等

4-1 セミナー・講演活動

健康長寿社会づくりのため、地域住民を対象とした健康管理や病気の予防についてのセミナーを主催したり、諸団体等が主催する講座に医師、看護師等を講師として派遣し、住民の医療や健康についての知識の向上に努めました。

【平成28年度実績】

医師(市民健康大学、糖尿病教室など) 19回(14回)、看護師 7回(10回)、コメディカル 15回(25回)、 合計 41回(49回)

4-2 健康キャンペーン

地域住民の健康増進を図ることを目的とし、当法人の看護師及び医師の協働によるキャンペーンを地域の特徴などを踏まえて実施しました。

相談コーナーの開設、血圧測定、血糖値チェック、血流測定、試供品の提供等病院内や市民交流センター等を会場とし無料で行なった。このほか、地域医療や生活習慣病に関する普及啓発も行いました。

【平成 28 年度実績】

健康フェスタふじおやま 小山町総合文化会館	194人(89人)
しゃくなげ祭(東部病院)	101人(310人)
ウォークラリー等(糖尿病キャンペーン)	40人(35人)
糖尿病教室	135人(122人)

5. 医療人材の養成支援

5-1 医療関係の実習生受入指導

病院では、大学や専門学校からの医学生、看護学生等の実習受け入れ、救急救命士の実習受け入れを行い医療に係る人材の育成を支援しています。

また、訪問看護ステーションでは、静岡県立静岡がんセンターと連携して認定看護師教育課程の緩和ケア実習指導を担当し、看護師の資質向上に貢献しています。

特に地元御殿場市医師会が運営する御殿場看護学校の運営等にかかわり、学校の講義においては当法人の医師、看護師等有資格者31人を派遣し、看護師養成について最大限の協力を行ないました。

【平成 28 年度実績】

・昭和大学・東海大学他から医療関係学部の実習を受け入れた。

医歯学部 18人(20人)、薬学部14人(18人)、臨床検査技師 1人(1人)、臨床工学士1人(2人)、理学療法士 2人(5人)、言語療法士 0人(1人)、看護師 9人(10人)、社会福祉士 1人(1人) 救命救急市 15人(13人)

・御殿場看護学校他

延実習人数 298 人 実習日数 157日
非常勤講師人数 29人(31人) 担当時間数544時間(553時間)

5-2 セミナー・講演活動

地域の医療従事者の資質向上やより高度な知識の習得のため、当法人、医師会や看護協会等の関係団体が主催する医療従事者を対象とする研修会に当法人の医師ほか医療従事者を講師として派遣した。また、公開講座として地域病院・医療機関を対象に公開講座を開催した。ホームページにも掲載し広く呼びかけた。

【平成 28 年度実績】

医師による講演(医師会・薬剤師会など) 25回(31回)
看護師による講演 9回(17回)[内視鏡技師他]
コメディカルによる講演[放射線技師会・超音波技師等] 8 回(8回)
他部門 6 件(0回)
合計 48回(56回)

5-3 出前授業

地域の中学校・高等学校に出向き、医療に関わる仕事の意義等について講義を行い、将来の看護師ほか医療従事者を目指す生徒が増えるよう啓発活動や命の大切さの教育をするなど出前講座を行う。医療従事者について、さらに興味を持った若者に対しては、「5-5 職場体験実習」に参加する道を開いている。今期は学校から依頼がなかったため実施しなかった。

5-4 職場体験実習

地域の中学校、高校、社会福祉人材センター等が行っている職場体験学習を積極的に受け入れました。

【平成28年度実績】

高校生高校	12校(6校)	学生数	30名(13名)
中学校	数 9校(7校)	学生数	20名(20名)
他団体	3団体(1団体)	参加者数	5名(1名)

5-5 看護学生への奨学金の貸与

御殿場看護学校等の看護師養成施設学生を対象に、当法人の創案により地域の病院が連携して奨学金貸与を実施しました。また、7月より学生の支援の充実を図り、病院部会に奨学金の返還を全額免除することを提案し、決定しました。

【平成28年度実績】

御殿場看護学校(3学年定員96人)	学生	16人(16人)、
その他看護学校生		3人(4人)
富士リハビリ専門学校	OT	1人(1人)

6. 病院、施設等における各種相談助言

6-1 医療についての技術、各種の相談・助言

当法人の地域医療ネットワーク(他の病院、開業医、高齢者施設等を含むネットワーク)を活用して、患者と家族にとって最適な医療を受けられるように、住民を対象として相談助言を行なっている。医療機関や施設からは、摂食障害に関する相談、子供の発育・病気に関する相談、グループホーム・個人からは、認知症に関する相談、在宅支援ナースに関する相談、通院中の患者または家族からは就職相談・社会資源活用のための相談、退院後の生活相談・経済的な相談、患者の家族からは、排泄障害に関する相談等がある。基本的にはすべて無料で対応しました。

【平成28年度実績】

地域医療連携室経由相談件数	9, 876件(9, 859件)
他院より紹介	4, 812件(3, 403件)

他院への照会介護棟に関する相談件数	2,474件(2,995件)
ケースワーカー相談延件数	12,338件
介護棟に関する相談件数	1,780件(1,301件)
医事課相談件数	76件(251件)

6-2 生活困窮者等への支援

経済的な理由で必要な医療サービスを受ける機会が制限されないよう、生活困窮、心身障害、高齢等の患者に対して、病室料差額等の減額・免除の制度を実施する。

平成12年1月から子育て世代の負担軽減のため小児科の病室料は無料とした。

【平成28年度実績】

生活困窮者の室料等の減免件数	370件(254件)
生活困窮者の室料等の金額	10,338,420円(10,104,480円)
小児科室料の無料化	3,354,540円(3,412,560円)
老人施設居室	2,111,856円(1,580,429円)